

序

日本大学経済学部産業経営研究所は、経済学部の教員が中心となって産業・経営・会計の各分野において、調査・研究を行うことを主旨として、研究プロジェクトを募り、その成果である『産業経営プロジェクト報告書』を Web 公開している。

本年度は権赫旭教授を研究代表者、村上直樹教授、村上英吾教授の本学共同研究者および宇田理教授（青山学院大学）の4名が、平成29年4月から平成31年3月までに実施した「動向調査」に係るプロジェクト報告として、「起業家の養成と再教育のための研究・教育システム構築に関する研究」と題して取り纏めたのが本報告である。

本研究の問題意識はわが国において、日本大学は企業経営者を最も多く輩出しているにもかかわらず、その実情は明確にされてこなかったことに着目し、経営者にアンケート調査を実施し、企業の状況と特徴等を検証することにある。

本研究の特徴をあげるならば、希少なデータ分析をも利用し経営者の属性・考え方にかかわる情報を検証していること、他大学出身の経営者との比較を行っていること、今後大学が果たすべき役割について考察していることである。本報告書ではアンケートの調査結果に基づいて、本学出身者の経営者（回答者）のうち、3分の2が親族からの事業継承者である調査結果のもとで、創業者と事業継承者との意識が異なる要素（能力、目的、大学への期待感）を考察した。また、経営者の属性を分析した結果では、事業継承者が取り組むべき課題と企業業績との関連性を明らかにしている。さらに企業家マインドを育成する手法を事例に基づき検討し、学びの場としての大学の重要性を指摘している。

なお、本研究チームは令和元年12月12日に、産業経営研究所第302回公開研究会を開催した。詳細については、Webで公開されている報告書とともに『所報』第86号に掲載されている展望（表紙）もあわせて参照されたい。

本研究チームの研究成果に敬意を表するとともに、今後の研究の深化を期待するものである。

2020年3月

日本大学経済学部産業経営研究所
所長 挽 直治